

所 報

一九八七年一月から二月までの一年間における専修大学社会科学研究所の諸活動を報告する。

一 機構および人事

(一) 所員総会

1 第四九回定例所員総会（一九八七年六月二〇日、神田校舎8C会議室）

議事 (1)室井義雄所員を議長に選出、(2)三輪芳郎所長挨拶、(3)新所員、研究参与ならびに所外研究員委嘱の報告、(4)一九八六年度事業報告、会計監査報告——報告を承認、(5)一九八七年度事業計画案および予算案を原案通り承認決定。

2 第五〇回定例所員総会（一九八七年二月五日、神田校舎社研）

議事 (1)内田弘所員を議長に選出、(2)三輪芳郎所長挨拶、(3)新所員委嘱ならびに所員解嘱の報告、(4)一九八七年度事業経過報告、会計経過報告——報告を承認、(5)一九八八年度事業計画案ならびに要求予算案を、一部修正の上、原案通り承認決定。

議決定。

(二) 運営委員会、会計監査委員および事務局の構成は次の通り。

運営委員会——三輪芳郎所長、佐藤博所員（総合理論部長）、加藤佑治所員（現狀部長）、加藤幸三郎所員（歴史部長）、二瓶敏経経済部長、平川東亜前事務局長、儀我壮一郎所員、玉垣良典所員、田路健一所員、福島新吾所員、水川侑事務局長。

会計監査委員——大西勝明所員。

事務局——〈事務局長〉水川侑、〈研究会担当〉澤野徹、柴田弘捷、新藤宗幸、〈編集担当〉松浦利明、赤羽新太郎、木幡文徳、〈文献資料担当〉作間逸雄、福島義和、〈パソコン担当〉望月宏、〈財政担当〉高橋祐吉、奥村輝夫。

(三) 所員・研究参与・所外研究員の移動

柳裕治氏（商）は四月一四日の持ち回り運営委員会の議を経て、四月一日付けで所員に委嘱された。

石渡貞雄所員は今年度から研究参与となられた。

以上により第四九回定例所員総会時における所員は一一三名（全員専任教員）、研究参与一四名、所外研究員一〇名となった。

大滝精一所員(宮)は九月三〇日付で退職されたので、所員の委嘱を解いた。

石塚良次氏(経、非常勤講師)は十一月二八日の運営委員会の議を経て、同日付けで所員に委嘱された。

以上により第五〇回定例所員総会時における所員は一二三名(一二名専任教員、一名非常勤講師)となった。

二 研究活動

(一) 社研プロジェクト

(1) プロジェクト運営会議

(i) 七月二六日(日)伊東市ホテル・ニューますや

「プロジェクトの基本方針ならびに組織づくりについて」

(ii) 一〇月一七日(土) 神田社研

「二年間にわたるプロジェクト研究の基本方針、運営、組織について」

(2) プロジェクト研究会

(i) 一〇月一七日(土) 神田社研

報告者 大井篤氏(通産省通商調査室長)

テーマ 「産業構造空洞化をめぐって——『通商白書』を参考にして——」

(ii) 一二月二二日(土) 神田社研

報告者 鶴田俊正所員

テーマ 「日本産業の空洞化をめぐって」

(3) プロジェクト付帯調査

三月一八・一九日(水・木) 東北沖電気株式会社

(二) 定例研究会

(1) 二月一四日(土) 生田社研

報告者 室井義雄所員

テーマ 「北部ナイジェリアにおける大規模灌漑計画と小農生産者について」

(2) 四月二三日(木) 生田第六会議室

報告者 金子栄作氏(日債銀営業推進第二部調査役)

テーマ 「日本におけるセキュライゼーション(金融の証券化)の可能性」なお、この研究会は、社研グループ研究「日本の企業金融の最近の変化」(代表熊野所員)と共催で行った。

(3) 五月二六日(火) 生田第一会議室

報告者 PHAN NHU CUONG 《ファム・ニュー・クォン》氏(ベトナム社会科学院総裁、ハノイ大学哲学部長)

テーマ 「ベトナムの人文科学・社会科学の現状」なお、この研究会は人文研と合同で開催した。

(4) 六月二七日(土) 神田社研

報告者 坪井善明氏(北大法学部)

テーマ「フランス大統領選とフランス社会党」

(5) 十一月二十八日(土) 生田社研

報告者 吉沢芳樹所員

テーマ「リカードウの思想と方法——経済学の照明として」

(三) 特別研究会

(1) 合宿集中研究会

(i) 三月一〇日(火) 観潮荘(油壺)

報告者 川北稔氏(大阪大学)

テーマ「ウァーラスティンの『世界システム論』をめぐる」

コメンテーター 伊豫谷登士翁氏(東京外大)・望月清司所員・常行敏夫所員

(ii) 七月二五日(土) 伊東市社会教育センター

報告者 山根美樹氏(日産自動車)・石垣辰男氏(電機労連調査部長)

テーマ「日本産業の空洞化の実態」

(2) 工場見学等

三月二一日(水) 日産自動車追浜工場・東芝「科学館」

(四) グループ研究助成

一九八七年度は次の六件(助成A)を助成した。なお、こ

の研究助成に対しては、グループのメンバーのうち、一人以上の所員が当グループが定めた共通テーマに関連する個別テーマで、本研究所が指定もしくは承認した公表誌に研究成果を公表する義務が課されている。

(1) 「労働組合と地域社会」(八五年度発足)

(栗木〈代〉・池田・加藤(佑)・儀我・西岡・溝田・高橋(祐)の七所員)

(2) 「国民経済計算の諸問題」(八五年度発足)

(田路〈代〉・正村・鶴田・松田・黒川・小藤・作間の七所員)

(3) 「資本論」と現代資本主義」(八五年度発足)

(沢野〈代〉・泉(武)・内田・大西・酒井・高橋(祐)・田口・西村・溝田・村上・望月(清)・矢吹所員の一二所員)

(4) 「日本の企業金融の最近の変化」(八五年度発足)

(熊野〈代〉・麻島・池本・伊東・上村・平川の六所員)

(5) 「現代社会における競争と公正」(八六年度発足)

(吉岡(恒)〈代〉・中島・平井・原田・宮本・望月(宏)の六所員)

(6) 「一五年戦争の法的・政治的研究」(八七年度発足)

(栄沢〈代〉・小沼・小林・近藤・木幡・佐々木・佐藤(恭)・隅野・高柳・福島(新)・宮坂・石村・大谷の二三所員)

(五) 個人研究助成

六件を助成した。なお、この助成には一九八七年度は次の原則として、交付年度より起算して三年以内に本研究所が指定もしくは承認した公表誌に、その研究成果を公表する義務が課されている。

(1) 柴田所員「ホワイト・カラー労働者のキャリア形成」
(2) 樋口所員「村落社会における文化の重層性についての研究」

(3) 溝田所員「『田高』の進展と産業調整の実証的研究」

(4) 宮下所員「社会主義経済改革」

(5) 室井所員「アフリカにおける非資本制生産様式について」

(6) 八林所員「ワイマール期ドイツにおける手工業の動態」

(六) 『専修大学社会科学研究所月報』の刊行

二八二号（一月号）斉藤所員「四〇年代・解放区と『生活教育』」

二八三号（二月号）大友所外研究員の「聞き書き」

二八四号（三月号）小沼所員「G・オーウェルにおける

『人間ぐわや』(decey)の概念」

二八五号（四月号）常行所員「ウォーラスティン『近代世界システム——農業資本主義と『ヨーロッパ世界経済』の形成』（川北稔訳、岩波現代選書）の概念構成とその歴史叙述への適用について」

二八六号（五月号）豊田利幸氏「現代の科学・技術の問題点」

二八七号（六月号）一九八六年度社研合宿研究会報告（その一）「ウォーラスティンの『世界システム論』をめぐって」報告者 川北稔氏（大阪大学）

二八八号（七月号）原田所員・広岡寿樹氏（日本経済研究センター研究員）「抜本的『税制改革案と地方財政」

二八九号（八月号）合宿研究会報告（その二）「川北稔氏『近代世界システム』論をめぐって」

二九〇（九月号）中島所員「消費者行動への双対性接近法——A Pedagogical Note」

二九一号（一〇月号）小沼所員「憎悪と恐怖(1)——『スターリン主義』考——」

二九二号（一一月号）小沼所員「増悪と恐怖(2)——『スターリン主義』考——」

二九三号（一二月号）森所員「Japanese Agriculture-Rice Policies Background and Issues as Related to Feedstuffs」

三 その他の活動

(一) 文献、資料の収集と整理

一 文献資料の収集

所員の希望をもとに統計資料を中心とした文献資料の購入・収集を行った。

一九八七年度利用可能となった文献・資料で主なものは次のとおりである。

(1) Thomas Thomson, Robert Chambers A Biographical Dictionary of Eminent Scotsmen, Georg Olms Verlag, 1971 Vols. 1—3

(2) J. C. Wood(ed), Karl Marx's Economics: Critical Assessments, Croom Helm, 1988

(3) 『大正ニエース辞典』毎日コミュニケーションズ、第一巻—第四巻

(4) J. Eatwell, M. Milgate, P. Newman(ed), The New Palgrave: A Dictionary of Economics. Macmillan, 1987 Vols. 1—4

二 文献資料の整理

収集した文献の登録（グループ研究・個人研究などで購入した文献を含む）、蔵書のチェック（現物とカードの照合）、雑誌の製本を行った。さらに、専修大学社会科学研究所雑誌目録（A4判）を作成した。

(二) コンピューターの利用

一 専大コンピューター・センターに連なる端末機「日立ワークステーション二〇二〇」が入った（二台、うち一台は

当分の間サービスで設置）。

二 コンピューター利用状況調査を行なった（二〇月）。

三 一二月一六日（水）「パソコンセミナー」を開催した（講師 望月宏所員）。（水川侑記）